巻　頭　言

若者から魅力ある学会へ

副会長　伊藤弘昌

次世代を担う青少年が科学技術に興味を持ち，優秀な多くの人材が関連する分野に進んでくるように，様々な企画が本会でもまた多くの大学でも行われている．我が国における若年層の科学技術離れの問題が顕在化してから大分時間がたち，その影響はますます深刻化している． 2007 年暮れに報道された 57 か国・地域での 15 歳男女の国際学力テストでは，多くの課目で我が国が上位から陥落していることが報道された．特に，理科に対する関心や意欲についての調査では最下位にあるという，背筋が寒くなる結果の報道はまだ記憶に新しい．バブル時代にゆとり教育の旗振りをした当時の文部省の責任者やその審議に加わった委員の方々には，大いにその責任を痛感してもらいたい．この影響はまず大学に顕われ，そして産業界から日本全体にと広がっている．

このような一般的な問題とともに，本会を取り巻く環境は更に別の重大な要素を含んでいる．それは科学技術の中でも特に顕著な若い人の ICT 離れである．多くの大学の学部・大学院で，機械系や医工学などへの人気に対して，かつてはトップであった電子情報系のそれが現在最下位に近い状況になっているということだ．これはどうしたことだろうか．このことは，大学と産業界との一体で成り立つ本会にとっては根幹を揺るがす重要な問題である．

豊かな夢が描ける分野に，若い人が人生をかけたいと思うのは当然である．逆に夢の描けない分野では若い人が集まってこない．本会がかかわる科学技術分野に，若い人が夢をはぐくめるような情報を発信することを，学会として考えるときではないか．これまでも始めに述べたようにいろいろな取組みを行ってきているが，考えて行動を起こしている人は本会の会員が中心で，その発想はなかなかこれまでの枠を超えにくい．またその企画に直接参加できる人数はわずかである．多くの若い人たちに届くように，少し異なった観点からの発信の方法がないだろうか．

自分の専門ではないことをしなければならないことはよくある．例えば外部へ情報を発信することを担当する場合などでは，コピーライターなどのプロフェッショナルを仲間に引き込んで一緒に行うと，その成果はぐっと良くなることをこれまで何度か経験をしてきた．本会からの若い人への発信も，視点を少し変えて情報発信のコンテンツを作り出せるプロフェッショナルとの共同作業を行えば，別な視点から夢の掘り起こしができ，その情報を広く，深く伝えることができると思う．この場合のプロフェッショナルは，情報通信に理解と見識のある科学評論家のようなジャーナリストや SF 作家である．会員が提供する最新の科学技術情報を用いながら，電子情報の将来の方向や夢を考え，社会に直接熱く語ってもらい，また，自身の成果としても使ってもらうというのはどうだろうか．

本会が主催する若い人が親しみの沸くような会合でその情報を直接伝えて頂くとともに，会場に来られない人たちにも提供できるようにディジタル化し，オンデマンドでだれでも利用できるようにする．といっても，若い人が学会の HP にはなかなか訪れないと思うので，各支部やソサイエティがいろいろ利用すれば，その効果は大きい．更に漫画にしてその内容を発信すれば，より親しみを持ってくれるだろう．とかく「紺屋の白袴」になりがちである専門家集団が，お得意の情報通信ネットワークを使って広くその成果を全国に発信すれば，かかる経費は決して高いものではないと思う．